

けものフレンズR 小話

名称（仮）

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

このお話は、けものフレンズの二次創作である、けものフレンズRを題材とした三次創作です。

祝詞兄貴様の生み出した素敵な宝物↓<http://seiga.nicovideo.jp/seiga/im9098445>

私なりのけものフレンズRを書きたいと思いました。

もし、皆様の素敵なけものフレンズがありましたら、お教え頂ければ幸いです。

色々な小話を書けたらいいなあ。

あまり大きな声で言えないのですが、自分は詳しくけものフレンズを知らないの

す。

それでも、優しい世界が傷つくのは嫌なので書きました。

少し上から目線な言い方になってしまいましたが、『この子はこういう子なんだよ』『この場所はこんなに素敵な所なんだよ』というのが御座いましたら、是非お教えてください。幸せて優しい世界がもつと広がれ。

お花見

目次

1

お花見

「おはなみ？　ですか？」

「そう！　あたしと、イエイヌちゃんと、それにロードランナーちゃんでしょう？
それでそれで、他にも皆も呼んでさ！」

「どうかな!?　と私に聞いてくるともえさん。」

「ヒトであるともえさんと何か出来るなら、私としても反対する事はありません！
ですが、おはなみ？　って何なんでしょう？」

「私は聞いてみる事にしました！」

「おはなみ、ってなんなんでしょうか？」

「あつ、ヒトのやる事だもんね。いきなり言われてもはてな？　だよね！」

「ごめんねー!?　と言いながら私をわしゃわしゃと撫でてくれるともえさん。
わふう。……」

そのままされるがままで、わはー！ と私はうれしくなっちゃいました！

ともえさんもなんだか、毛づくろいをした後のようにきらきらしてみえます！

……はっ!?

「それで、おはなみって……?」

「あっ！ 忘れてたよー！」

「ごめんねー!? と言いながらまた私をわしやわしやと、つて、またですかー!?

……わふうい。

私のしつぽが動くのを止められません！

またわしやわしやー、とされ続けていました。

「ふう、満足」

「わ、わふう……」

さすがにともえさんも、私も疲れたのですこしきゅーけー、です。

きゅーけーをして、ともえさんも私もげんきになったのでいよいよおはなみのお話で

す！

「それで、お花見っていうのはねー」

「はい！」

「桜の木の下で、皆で桜のお花を見て、皆でご飯をいっぱい食べて、皆で楽しく過ごすんだよ！」

それが……おはなみ！

「すごいです！　すごいですー！　私もいまからたのしみです！」

ヒトであるともえさんと、フレンズのみんな、そしていつしよにいる私！

私には、そこにいるみんながわらっているのがよくわかります！

きつとすごいものになります！　おはなみ、おはなみ！

「よし、それじゃあはかせ達にも知らせに行こうよ！」

「はい！　ともえさん！」

すごくいいです！

「えつとね！ みんなでお花見しようと思って！」

「ふむ、おはなみですか。いかがでしょうじよしゆ」

「それはもちろんかれーは出るのでしょうね」

「カレー、つてアレの事かな？ だったらだいじよーぶ！ あたしがバツチリ作るよ！」

「ほほう、いいましたね？ ともえ。あのあじをたのしみにしていますよ」

「ではわれわれもおはなみへむかいますよ、はかせ」

よくわからないことだらけですけど、ともえさんはりょうり？もとくいなのですね！

すごくいいです！

「ところで、おはなみのばしよはしつかりきめているのでしょうね？ ともえ？」

「でなければ、われわれはあてもなくさまようことになります」

「あ……」

はかせたちからばしよを聞かれてこまってしまったともえさん。
かんがえてなかったのですね……。